

## いくら気になるとはいえ、他の子と比べない。

子供を育てていると、他の家庭のお子さんと接する機会が出てきます。

まだ幼いとはいえ、早い段階から人間関係に触れ合うのはいいことです。

他の家庭の子と触れ合うことで、人間関係の仕組みや距離感などを覚えるでしょう。



他の家庭のお子さんと接していると、親御さんとしては、ふと思うことがあります。

自分の子と他人の子を、比べてしまいます。

ほかの子と接する機会があると、わが子と比べがちになり、ささいなことにぴりぴりしてしまいます。

「うちの子より、歩くのが上手」

「話がしっかりしている、箸の持ち方もうまい」

「同じ年なのに、うちの子より成長が早い。なぜ？」

「うちの子は、成長が遅いのかしら」

親は、つい自分の子よりよくできている子を見てしまいます。

その結果、比較しながら育てようとしてしまいます。

「A君ができるからうちの子もできるはず。もう少し厳しく育てよう」

自分の子よりできない子を見るのは気にならないですが、自分の子よりできる子を見つけると、気持ちが焦ります。

その時点で、何か負けているような気持ちになってしまうなら、要注意です。

わが子への教育が乱れ始めている証拠です。

「十人十色」という言葉を忘れていませんか。

子供には、伸びが早い子もいれば、遅い子もいます。

差があるとはいえ、ささいな差です。

まだ幼児期ですから、発育がほんの少し早かったり遅かったりなど、気にしないことです。

そのほんのささいな差に、親の心情が悪化するほうが、子育てへ悪い影響を与えます。

どんな理由であろうと、子育てのとき、他人との比較はよくありません。

親なら大人らしく、少々のことでも動揺しないことです。

わが子はわが子らしく育てることで。

焦らず、のんびり育てるようにしましょう。

## 幼児がすくすく育つ教育方法(1歳～6歳) その3

**他人の子と比べないように育てる。**